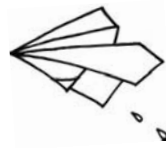


紙飛行機

こちら校長室

平成20年度

9月号



平成20年 9月19日

京都市立修学院小学校

校長 伊藤喜昌

TEL 781-4439

続「ひまわり学級」どうぞよろしく！

ひまわり学級の子どもたちは…

修学院小学校の育成学級は、「ひまわり」という名前と呼んでいます。ひまわり学級の子どもたちは、何かをやろうと思ってもすぐにはできないことが多いです。いろいろなことができるようになるのに少し時間がかかります。つまり、いろいろなことが「できない」のではなく、できるようになるまでに「時間がかかる」のです。

例えば、覚えることがゆっくりだったり、思うようにできないのもどかしがったりすることがあるかもしれません。何度言っても忘れてしまうことがあるかもしれません。また、やろうという気持ちがない時にはなかなか活動を始めなくて、周りのみんなを困らせることもあるかもしれません。しかし、みんなと同じように「心の世界」には確実に広がっています。ただそれをうまく伝えることができない場合が多いようです。

このように、ひまわり学級の子どもたちは、同じ年齢の子どもたちと同じことを同じ速さで学習することが難しいのです。だから、ひまわり学級という小さな集団の中でその人に応じた内容を、ていねいに時間をかけて学習していきます。

また、算数や国語の教科学習だけでなく、実際に生活していくために必要な事柄、例えば身の回りのことを自分でする、公共の乗り物の利用の仕方等も学習します。そうして、ゆっくりではあるけれど成長・発達していくのです。

ひまわり学級と交流するのはなぜ？

世の中には、いろいろな人がいます。走るのが速い人、サッカーがうまい人、算数が得意な人、絵が好きな人、掃除がていねいな人、親切な人…等、どの人にもよさがあります。反対に弱さももっています。私たち人間は、互いの弱さや欠点を言い合うのではなく、いろいろな人のよさを見つけ（認め）、自分に取り入れ、互いに助け合っていこうとすることが大切です。

人は、一人一人、顔や体格、性格が違うように、1つのことができるようになるまでの時間もみんな違います。ひまわり学級の人たちは、みんなから比べればできないことがたくさんあるかもしれません。でもそれは、「できるようになるまで時間がかかる」から「今はできない」という状態なのです。だから交流することを通して、できるようになろうとがんばっている所（よさ）を見つけてほしいのです。

また、ひまわり学級の子どもも同じ年に生まれた子どもたちと一緒に活動したいと思っています。さらに、ひまわり学級の親も教職員もみんなと一緒に育てたい、そして大きくなったら、社会人として一人で生きていけるようになってほしいと強く願っています。そのためには、本人の努力はもちろん、親や教職員の協力が大切です。しかしそれ以上に、周りの人々の理解や温かい励まし、支えが必要なのです。だから、交流（総合支援学校や聾学校との交流も含めて）を通して、障害というものを正しく理解してほしいし、ひまわり学級の人たちと一緒に何ができるかを考えてほしいのです。

そのために交流をしているのです。

（続く）

緑のカーテン

北校舎・本館の窓側に植えたゴーヤが、夏の間成長しました。鮮やかな緑の葉っぱに教室が覆われて…という所まで育ってはいませんが、ほんの少し緑のカーテンらしくなってきました。

この緑のカーテンの取組は、全市的に行われているもので、自然の力を利用して少しでも部屋を涼しくしようというものです。

教室が涼しくなるのにどれだけ効果があるかわかりませんが、教室のすぐそばに緑があるのは、やっぱりいいものです。



9月のプール…！

昨年の9月はとても暑く、保護者の方々のご意見から、運動会の実施日を遅くしました。そのため、水泳学習を9月も実施することにしました。しかし、今年は夏休みの終わり頃から涼しくなり、プールからあがった子どもたちは、バスタオルを体に巻き付けて…ブルブル。それでも子どもたちは、水泳学習を楽しみにしているようです。

運動会の練習 始まりました

学校では、6月頃から運動会について検討し、夏休みの終わり頃には、学年でどのように進めるかが話し合われ決定されます。ですから夏休み明けの職員室では、各学年の先生方の運動会についての話し合いや踊りなどの練習風景を見ることができます。「この音楽は、組体操で使うのかな。」「この学年は、沖縄の踊りだな。」なんて考えながら見ているのはとても楽しいものです。

先生方は準備万端、しっかり練習してから子どもたちへの指導が始まります。どんな種目になったのかおうちでも話を聞いてあげてください。そして、当日をどうぞご期待ください。

けがをなくそう！

4月～7月で、学校から病院へ連れて行った件数は、40件。ほとんどが自損による骨折や打撲。校内での大きなけがを少しでも減らしたい！という思いから、夏期研修会を開き、次のように取り組んでいくことを共通理解しました。

- ・朝会で全体指導…校内でのけがの様子、廊下や曲がり角を走ることの危険性、遊具の遊び方
- ・学級指導…遊びの決まり、廊下は走らない・遊ばない、曲がり角の歩き方
- ・環境整備…中庭の石の除去、土を入れる、鉄柱に色を付ける、遊具の点検と修理、階段廊下にセンターラインの明示、「右側通行」「走りません」「入りません」などの看板作り
- ・今後の取組…けがをしないための体力づくり
- ・学校全体での声かけ

などです。おうちの方でも安全な学校生活を送れるよう声かけをお願いします。